

一緒に笑っているのに、涙はつが、いっぱい出ます。



いのまましりつ みなとしようがっこう ひなんじよ

石巻市立湊小学校避難所

監督・撮影 藤川佳三 / 瀬々敬久プロデュース
 (『ヘヴンズ ストリー』『アントキノイノチ』)

2011年4月21日から2011年10月11日まで。
 テレビならまっさきさきカットしてしまいたいような

日常の風景と本音のつぶやき。

フツージャやないのにフツアみたいに。

家族じゃやないのに家族みたいに。

心で泣いて一緒に怒って一緒に笑った。

石巻市立湊小学校避難所の6ヶ月。

復興計画なんか
 待ってたら
 死んじゃうよ



家や家族を失くした人たちが、ここで大きな家族になった。 避難所閉鎖までのヒューマン・ドキュメント。

2011年3月11日。東日本大震災。宮城県第二の都市、石巻市の死者・行方不明者は3,779人。ピーク時には5万758人が避難所生活を余儀なくされた。4月21日。避難所の1つとなった旧北上川に近い湊小学校を藤川佳三監督は訪れた。監督が、いちばん驚いたのは避難者の底抜けに明るい様子。でも何日か過ごして

わかったのは、笑顔の奥底にしまいこんだ悲しみの大きさだった。そして思った。ずっと一緒に過ごさないとわからないことがたくさんあるのではないだろうか。それから避難所が閉鎖される10月11日まで6カ月あまり。そこに泊まり込み、避難者に寄り添いながら、カメラを回した。それがこの映画だ。

前巻「めんくたさ」。津波の後、文字通り車も出来ず、文房は浮かんで消しゴムで消すように消えてしまいます。六九歳の曲が角はどんな曲が角かとわくわくしながら待ちました。そしてなんとまたここから。避難所にかつぎ込まれ、時は死んだように冷たかたさうに。姉はカレキの手を握るけれど、悲痛(あせ)いカレキの手を握るお願いしたまうす。佛も血管もほらほら。全身エコーシノ症候群、シンキンコウソ、キンシノ症候群、おまけにハイドコまで、脱水症状も。薬も注射もよく、板の間に敷いてた。そして勝手に泣いた。このころは早く逃げます。朝の身は生きていたいと思ひ、仮設の住人の方々をまろしに家族と勝手に思ひ、小笠原先生の双子の兄弟、すの女の「愛子ちゃん」呼ばれ、今度オセロをおとす貰います。五才の曲が角はどんな曲が角かと今から楽しみにしたまうす。いよいよ申します。子七才。



悲しさ、悔しさ。それでも残るのは温もりだった。 人って、こんなふうにながりたいんじゃないだろうか。

「被災者は何を貰ってもありがとうって言わなければいけないの?」。使い古した衣類が積まれた支援物資を前に、そんな言葉に胸を突かれる。初めて聞いたり前年の本音。避難所生活の悲しさ、悔しさ。それでも平常時には交錯しなかつた人たちの新しい出会いは、予期せぬ「生きる力」を生む。70歳目前の独り

暮らしの愛ちゃん。仮設住宅に当選した愛ちゃんは、避難所を出て行く日、「嫁入りの気持ちです」と言った。同室の1人が歌う長持明に「親類がいっぱいでできた」と顔をくしゃくしゃにした。不謹慎かもしれないけれど、人って、こんなふうにながりたいんじゃないだろうか。

「3・11」大震災の悲しみを笑顔に換えて歩み出す。
 人って愛おしく、すごい!

石巻市立湊小学校避難所
 監督・撮影 藤川佳三 / プロデュース 瀬々敬久 / 編集 今村隆雄 | 2012年 | 日本語 | 112分
 © 2012 STANCE COMPANY, INC. & OUT
 minatohinajo.com

9/9(日)、藤川佳三監督、瀬々敬久プロデューサー舞台挨拶
 9/8(土)~9/14(金) 12:55
 9/15(土)~9/21(金) 18:35
 前売券1,200円【劇場窓口ほか、ひが、ローソンにて9/17まで販売】当日一般1,500円 | 専・大學生1,300円 | 中・高・シニア1,000円 | 小人700円

新編：映画版より難波で分り十三町下津原口より3分 大崎市宮川區十三本町1-7-27
 第七藝術劇場 番06-6302-207
<http://www.nanagei.co>
 桂直之さん(三陸河北新報社)